

例会 NO 114

No 3- 29 1993. 2. 17 発行



1992~1993 RI テーマ
まことの幸福は
人助けから
RI会長 クリス・ダンターマン



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1992~1993年度クラブ目標 “地域を見つめよう……地域にロータリーの輪を……”

第114回例会報告(2/10)

司会 SAA 高村 弘



☆点 鐘 会長 赤尾 恭雄

☆ロータリーソング 「手に手つないで」
ソングリーダー SAA 今井 正司

☆お客様紹介 会長 赤尾 恭雄
佐々木 毅様 (卓話講師: 東京大学教授)

☆会務報告 会長 赤尾 恭雄

* 多摩市社会福祉協議会の表彰について。
2/27 (土) 開催の平成4年度多摩市社会福祉協議会の席上、当クラブを「寄付功労者」として表彰する旨通知があった。

* 「福祉大会」について
日時: 2/27 (土) 午後1時~5時
会場: パルテノン多摩
内容: 「第1部」 式典 (挨拶・表彰)
「第2部」 講演
講師 (元リビッツ選手) 山田 敬蔵氏
・山田氏は現在、盲人マラソンの普及に努

力、実際に伴走者として活躍中です。

* 「バランスのとれたクラブ業績に対する会長賞」の申請について
2/5、ガバナー事務所を訪問し「バランスのとれたクラブ業績に対する会長賞」の申請をした。申請は、クラブ奉仕関連3項目、職業奉仕関連2項目、社会奉仕関連3項目及び国際奉仕関連3項目を提出した。

☆ 幹事報告 幹事 遠藤 二郎
第84回国際ロータリー年次大会がオーストラリアのメルボルンで5月23日~5月26日迄開催されます。

☆委員会報告

★出席委員会

〔出席報告〕 出席委員長 宮本 誠

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日報告	46	39	1	6	86.96%
前回訂正	46	35	6	5	89.13%

〔今週のメイキャップ〕

萩生田茂夫 (2/9多摩)

〔欠席届者〕 伊神 稔、永田 健作、
内藤 實、中山順一郎、津守 弘範、

〔欠席者〕 小坂 一郎

★親睦委員会 親睦委員 森田 舞子

ニコニコBOX

吉尾警太郎 たまに忘れた頃に。

佐伯 和廣 梅が咲きましたね。

吉沢 洋景 患者にひどい流感をおいてかれ連日39°ありました。ニコニコしてられません。

猪股 末男 今日も元気が良く楽しいです。

風間 茂穂 本日はご多用中の佐々木先生をお招きして。

橋本 幸夫 先日は結婚祝いを頂戴してありがとうございました。

北村 幸彦 佐々木先生ようこそ、お忙しい中ご苦労様です。

森田 舞子 いいお天気がつづいております。

小島周二郎 次女の入試が無事終わりました。

あとは長女の入試だけです。

以上合計 20,000円

★職業奉仕委員会 吉田 文夫

今日は「職業宣言」を皆様にお渡しします。主旨は職業人として道徳的水準を高めなくてはいけない。そのために具体的に実践していただくためにお配りします。事務所などに張って役立てて下さい。四ツのテストと一緒に活用されると役に立つのではないかと思います。

〰〰〰〰 【米山功労者表彰】 〰〰〰〰

橋本 幸夫会員が表彰されました。



〰〰〰〰 《3分間ミニ情報》 〰〰〰〰

「拡大」 宮本 誠

拡大とは通常新しいクラブを作ることをいう。クラブ内の会員を増やすのは増強という。内部拡大という言葉もありこれは単に会員を増やすというのではなく未充填職業分類に人



を入れるという意味であると理解している。拡大は非常に重要であり、カバナーの任務の一番に上げられるのが新しいクラブを作ることであり、R Iの大きな目標の一つに拡大ということが書かれている。又地区ガバナーの第一の任務も新しいクラブを作ることであるとされている。ではなぜこれ程拡大が必要であるかというところをロータリアンを増やせばそれだけロータリー思想が広まるのではないかとということです。



〰〰〰〰 【卓話】 (2/3 講演) 〰〰〰〰

『R理解推進月間に因んで』

講師：(川崎北RC) 萩原 敏春様

1945年、日本は敗戦

の年でした。それから

40年後の1985年3月に

ロシアでゴルバチョフ

がトップに躍り出まし

た。そして今、ECが

統合などをやっている

わけですが、その素

なる案がその年の5月に

できたのです。そして

9月には日本が円高により

債権国のトップ

にのし上がったと同時に、

アメリカが一転して

債権国から債務国に転落

するという凄まじい

変化が世界の4大地区で

起こったのです。さて

今度は1945年から40年

遡りまして1905年の

こと、この年は提灯行列

の年でした。日本が

世界一のロシアを叩き、

最高にご機嫌の時

だったのです。さらに

40年遡りますと1865

年、維新前夜の年、侍

が皆失職した年です。

さらにそこから40年

遡りますと1825年、



の幸

以上どういう事かということ、40年ごとに転機があるということです。では2025年はどう

なるのでしょうか？ わが国で非常に危惧されることにマスコミの肥大化があります。いろいろな分野に目を向けるのはいいのですが、これは悪いけれどもこういう良い部分もあるという取り上げ方をしない。消費税にしても、悪税だ、悪税だと騒ぎ立てていました。あの態度を考えるとこの先日本はかなり危ない気が致します。私達自身マスコミに負けない論陣を張る必要があると思います。これは松下政経塾を出てアメリカのシュレイダーという女性の国会議員に仕えた秘書の高橋早苗さんという方の話ですが、去年ブッシュ大統領が自動車会社の社長3人を連れてきた時、アメリカの惨憺たる状況を聞かされ、あるTV局が彼女に取材を依頼しました。彼女はGMを失業した家庭を訪問し、インタビューしたわけですが、家は優に200坪くらいの広さがあり、犬小屋もテカイ、こうした状況を撮影してきたわけですが、惨憺たる状況を流そうとする矢先にこんな裕福な家庭の報道ができるわけがないと言う事でかなり絞られたそうです。しかしそれこそ正しい情報だったのではないかと思うのです。そういった力のある人間が職を失うわけで、それこそ社会的に大きな問題な訳です。日本でも一流企業に入って先々安泰と思われる暮らしをしていた人が突如闇の世界に放り出されれば大変な事件です。マスコミの偏見が情報を葬り去った一例で、非常に怖いわけです。

憲法一つとっても、最近野党から申し出があって動き出したかのように見えますが、これも外圧で、大化の改新は中国、明治維新はペリー、平和憲法はマッカーサーだったわけで、PKOにしても、1948年に発足して40年間の1988年までに13回の出動回数であったものが、ロシアの崩壊後一年間で優に13回を越すような戦争騒ぎになってきた。こういう時に日本が家には家訓があって火事には絶対近寄ってはいけないんだと言っていたり、火事が近くなってきた時に平和憲法を誇示しては日本は取り残されると思います。世界のはげしい変動の中でソ連のルーブルの価値の変化は物凄い。10年前1ルーブルが500円相当、それが3年たって半分になり、今では1

ドルが500ルーブル、円に直して1ルーブルが30銭程度になっています。今中国人が東欧圏に10万人行っているそうです。これは鉄道を使って2万円弱で東欧に行けるからだそうです。今は景気が非常に落ち込んでいますが、一時1990年ダウが最高の39,000円台に突入し、時価総額にして600兆円、これはダウが千円上下することに15兆円のプラス・マイナス影響を国に与えることになります。このため大蔵省は必死になって株価対策を行っています。

然しながら、2月の株価が危ない理由として、まず、3月の悪い決算が頭を並べて出てくる事。クリントン政権が激しく対応してくる事。ワラント債の償還が始まるという事の3つがあげられます。ポールハリスが“人間が営みの中で、最も愚かしい事は、金銭に対する執着だ”と言っているように、金、物をなりふり構わず追い求めた結果が現在の状況だと思えます。こうした現状の中で、ロータリーの教えの他人への思いやり、お客様、従業員の立場に立つことに徹する経営者がこの不況の中でも必ず成績を上げると言う事を言い残したものだと思えます。私の地元はハイテク産業のNEC、日立といった大企業の傘下にある小さな企業を集めて活性化した町です。これが今非常に沈んでいます。私のホテル仲間でも今までどんなに波があっても、低価格とユニークな営業でクリアし、繁盛してきたのが、今や散々な状態なのに驚きました。

湾岸戦争時、NHKの小浜キャスターがこういう話をされました。ハイテクの機器を使って米国と日本が戦ったならどちらが勝つかという米の高官と日本の防衛庁の幹部との雑談で、米の高官は日本の兵隊の教育レベルをあげて日本が勝つと言ったそうです。日本は明治以来、教育の制度が効を奏して現在の経済成長があった。確かに平均的教育はいいのでしょう。ハイテク分野で日本が唯一取りこぼした分野が実はコンピューターであった。

IBMに追いつけ追い越せでやって来た。そのIBMがなんで凋落したのでしょうか。CPUは心臓部分に1cm四方の大事なものがあるそうです。IBMはこれを外注に出していたわけです。もう一つ米国でCPUが普及し

た要因に、日本ではリフトをおまけにつけていた。これではリフトが育たない。米国では全国にCPUのネットが完成している。これを可能ならしめたのは、プログラムが目を見張るように普及していたからです。価格はドンドン下がり、年率70%増の驚くスピードで普及していった。更に“光ファイバーto the home”と言うタイトルで各家庭に光ファイバーのネットワークを作ろうという計画があります。これは自動的にCPUに継がるので、すさまじい世の中の変化になるそうです。丁度電信電話が普及していった時に匹敵するような変化が起こるのではないかと言われています。一方日本は政治も企業も現在のショックから基礎研究等に打って出る姿勢が湧いていないそうです。若い新大統領を迎えた米国は余勢をかって半導体分野でも日本を追い越すための体制、施設の充実、基礎研究、その金の手当てを確実に進めているそうです。10、5、3とか7、5、3という言葉が言われています。これは業界が立ち直るのに10年、5年、3年かかるという事です。10年が金融、5年が不動産、3年が証券界と言われていました。非常に危機をはらんだ現状です。そしてロータリーの教えはこの不況に必ず力を発揮する教えでもあります。共に私も皆様もこの時期にロータリーの道に今いるという事を感動的に感じるわけです。

— 【第3回クラブ協議会】 —

第114回例会後、例会会場において第3回クラブ協議会が開催された。

今回は上半期の反省を踏まえて、下半期の活動計画を確認することを目的とし、かつ、「下半期1委員会1プログラム運動」の実践をクラブのリーダーシップを持つ役員、理事、各委員会委員長が互いに誓い合う場とした。協議会はA、B、Cの3グループに分かれて討議を行い、その後、総合発表会を行った。

Aグループの発表者は田中情報委員長。

このグループは会員増強、会員選考、職業分類の委員長が集まったので、討議は会員増強問題に集中した。目下の所、前半で目標の80%近く増強できているので、後半で100%達成を目指します。職業分類も片寄らないよう配慮していく。尚、情報委員会としては3分間ミニ情報を完結できるよう努力していく。

Bグループ 発表者 宮本出席委員長

BグループはSAA、親睦、出席、会報、広報、雑誌、プログラムの各委員長が集まった。出席委員会は上半期目標の出席率90%以上を達成出来た。下期も引き続いて90%以上を確保したい。プログラム委員会は前半、卓話に著名な講師を多数呼んだ。講師謝礼の予算を補正して欲しい。親睦委員会は「たなばた集会」等、都合で開催出来なかったこともあったが、クリスマス集会は盛大に成功裡に出来た。後半は6月の親睦旅行に集中したい。SAAは新入会員が多いので、後半はSAAの何たるかを含めて教育し、クラブ運営を円滑に進めていく。会報は毎週怠りなく会報を出すことが務めであり、上期は苦勞しながら実行してきた。下期は座談会、アンケートを実施し引き続き会員に読まれる会報を発行していきたい。雑誌及び広報は予定どおり、上期の活動を行った。「ロータリーの友」を集会所に配置したり、寄稿したりした。下期も計画どおり実行する。

Cグループ 発表者 吉尾社会奉仕委員長

Cグループは職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の各委員長が集まった。

各奉仕委員長とも、上期は「クラブ業績に対する会長賞」の申請にからみ、懸命に努力した。下期も計画100%達成を目指して努力する。

最後に赤尾会長より、残り5カ月間の各委員会の活性化について要望があり、予定どおり午後4時に終了した。



東京多摩グリーンロータリークラブ

会 長：赤尾恭雄 副委員長：津守弘範・表員：北村幸彦
幹 事：遠藤二郎 杉田 誠・佐伯和廣・隅 耕造
会報委員長：奥田文夫 小島周二郎

事務局：東京都多摩市落合547
多摩センタービル7F
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会場 多摩そごうアパート7F サファイヤバンケットルーム

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30